

平成 29 年 11 月 8 日

平成 29 年度 第 2 回 学校協議会

<協議会委員>

名 前	職 名
松 宮 新 吾	追手門学院大学教授
河原林 昌 樹	弁護士
中 野 旬 史	門真市立第五中学校長
脊 戸 利 子	門真市立砂子小学校長
三 村 泰 久	門真市教育委員会
青 木 美智子	門真なみはや高校 P T A 会長

欠席者 三村 泰久 委員

<事務局>

宮 田 幸四郎	教頭	山 口 周	生徒指導部長
瀬 利 悦 男	事務長	宮 菌 賢 二	生徒会指導主任
辻 敏 彦	首席・2 学年主任	藤 田 和比郎	保健部長
三 井 和 夫	首席・教務部長	中 嶋 実	総務部長
山 村 裕 子	指導教諭	黒 田 いつみ	1 学年主任
山 中 えみこ	進路部長	西 田 恭 子	3 学年主任

欠席者 山村 裕子

<開催日時> 平成 29 年 11 月 8 日 14 時～16 時 45 分

<内容>

- 学校長挨拶
- 授業見学
- 議事

<審議事項>

- 1 第 1 回授業アンケート結果について
- 2 平成 29 年度学校経営計画について(進捗)

<報告事項>

- 1 教科書採択について
- 2 各学年、分掌より
- 3 その他

<報告内容>

- 保護者の意見提出がなかったことを報告
- 1学年は、学力等生徒の様子にほぼ変わりはないが、他学年に比べて欠席が多い生徒が多くいる。
- 授業アンケートの結果について、昨年同時期よりも概ね高めである。極端に低い数値は出ていない。

<意見・要望等>

- ・授業アンケート結果から、授業に真剣に取り組んでいるという生徒の自己認識の高さと、予習・復習等の家庭学習に対する取り組み意識の低さとの間にギャップが生じていることが指摘された。新学習指導要領で求められている主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力を育成するための工夫が求められる。
- ・カリキュラム委員会のねらいは？
→新学習指導要領への対応を検討する。現在は、生徒はもちろん教員にとっても時間割上の偏りを解消したり、バランスの取れるような科目配置を検討している。早い時期から、進路実現を意識させるような科目選択ができるような配置について検討している。
- ・教員の授業に関する工夫は必要だが、生徒の家庭学習を支援するような取り組みはしているか？
→週末課題を課している(2年)。宿題以外の家庭学習をしないという傾向があるので、宿題の出し方を工夫し、宿題をすることで考査で成果が出るようなものを考えている。(英語)
- ・クラブ加入率を維持するための取組みは？
→例年1回だった体験入部を7月にも実施した。初めての取組みとして10月に中学生を対象に部活動体験を実施し100名ほどの参加者があった。
- ・(規範意識に関して)生徒の遅刻数などでこれまでと大きな違いがみられるか？
→遅刻総数は年々減少傾向にあったが、今年度は増加してしまった。生徒の意識変革に訴え、減少につなげたい。
- ・高校では、どのような基準で教科書選定・採択が行われるのか？
→本校生徒の実態や学校の特色などを勘案して、まず各教科が中心に検討する。各教科で候補を選定し、校内で教科書調査委員会を開いて採択している。
- ・(授業を見学して)授業のいろいろな工夫は感じられた。一方で、少数だが寝ている生徒がいたのが気になった。
- ・校舎の老朽化が進んでいる。なんとかならないものか。

次回開催予定 1月24日(水) 15時から